おおさき福祉のページ vol.135

編集製作／社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会
〒989-6154 宮城県大崎市古川三日町二丁目5－1
大崎市古川保健福祉プラザ(fプラザ)内
TEL 0229(21)0550　FAX 0229(24)1158
URL　https://www.osaki-shakyo.com
製作協力／株式会社大崎タイムス社

令和4年度 おおさき福祉の心コンクール

主催：社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会
後援：大崎市・大崎市教育委員会・㈱大崎タイムス社
大崎市ボランティア連絡協議会・大崎市民生委員児童委員協議会
大崎市障がい者福祉協会・大崎市老人クラブ連合会

入賞おめでとうございます

次世代を担う小・中学生を対象に福祉に関する作品に取り組む事を通じて、地域福祉活動やボランティア活動への関心を高め、「思いやり」や「支えあい」の心を育むことを目的に、令和四年度おおさき福祉の心コンクールを実施いたしました。

福祉作文・福祉ポスター・福祉川柳それぞれの部門に、合計753点の作品を応募いただき、ありがとうございました。入賞された皆様をご紹介いたします。〈敬称略〉

◆福祉作文の部〔小学生下学年の部〕
◇最優秀賞
古川第二小学校　二年　小野寺　実緒
◇優秀賞
松山小学校　三年　郷古　ゆい
◇優良賞
鳴子小学校　三年　八田　咲輝人
古川第三小学校　三年　遠藤　蒼士

◆福祉作文の部〔小学生上学年の部〕
◇最優秀賞
西古川小学校　五年　金子　光汰
◇優秀賞
古川第二小学校　五年　菊地　雅美
◇優良賞
西古川小学校　六年　福原　世梛
松山小学校　六年　伊藤　晃

◆福祉作文の部〔中学生の部〕
◇最優秀賞
鹿島台中学校　三年　加藤　真帆
◇優秀賞
鹿島台中学校　三年　宍戸　杏瑚
◇優良賞
岩出山中学校　二年　村岡　由季乃
鹿島台中学校　三年　小野寺　雛華

◆福祉ポスターの部〔小学生上学年の部〕
◇最優秀賞
東大崎小学校　三年　野田　七榎
◇優秀賞
西古川小学校　一年　内田　陽大
◇優良賞
鹿島台小学校　三年　遠藤　陽乃
沼部小学校　三年　佐藤　希乃羽

◆福祉ポスターの部〔小学生下学年の部〕
◇最優秀賞
三本木小学校　五年　鈴木　萌花
◇優秀賞
松山小学校　六年　松田　綾奈
◇優良賞
古川第五小学校　六年　吉岡　佳音
川渡小学校　六年　湯山　風花

◆福祉ポスターの部〔中学生の部〕
◇最優秀賞
岩出山中学校　二年　宇和野　采侑
◇優秀賞
古川黎明中学校　一年　湯山　花音
◇優良賞
三本木中学校　三年　髙橋　里穂
三本木中学校　二年　三浦　愛菜

◆福祉川柳の部〔小学生下学年の部〕
◇最優秀賞
古川第二小学校　二年　武田　崇司
◇優秀賞
鹿島台小学校　三年　近藤　章太
◇優良賞
西古川小学校　二年　中鉢　陽香
古川第三小学校　三年　阿部　栄斗

◆福祉川柳の部〔小学生上学年の部〕
◇優秀賞
沼部小学校　五年　荒尾　荘弥
◇優良賞
鹿島台小学校　六年　斎田　康成
鹿島台小学校　六年　佐々木　陽生

◆福祉川柳の部〔中学生の部〕
◇最優秀賞
岩出山中学校　二年　佐藤　友結
◇優秀賞
岩出山中学校　三年　佐藤　実紗
◇優良賞
岩出山中学校　三年　加藤　莉音
古川学園中学校　二年　畠山　昊子

【福祉作文の部】小学生下学年の部　最優秀賞

「ヘアドネーションから考えたこと」

古川第二小学校　二年　小野寺　実緒

ことしの夏、わたしはヘアドネーションをしました。五さいから三年くらいのばしたかみは、こしまでの長さになっていました。かみは、三十一センチメートルの長さできって、ふうとうにいれて、カツラを作るところへおくりました。びょう気で、かみがぬけた子どもたちのための、カツラになります。

ヘアドネーションのことは、おかあさんが教えてくれました。わたしは「こどもびょういん」で生まれました。そこでおかあさんは、びょう気で入いんしているたくさんの子どもたちを見たと言っていました。その話をきいて、いろいろな人のために、ヘアドネーションをやってみようと思いました。

かみをのばしている時は、夏はあついし、つかれるなあと思いました。そんな時、四さいのおとうとのクラスに、ずっと入いんしていた子が、かえってきたという話をききました。おとうとのクラスしゃしんを見て、わたしは、どの子かすぐにわかりました。こういう子のためにカツラは作られるんだとわかり、かみをのばすのをがんばろうと思いました。長いかみはあらうのも大へんだけど、ピアノのはっぴょう会やコンクールでは、かわいいかみがたにむすんでもらった、思い出のかみになりました。

もし、じぶんのかみがぬけたらとかんがえてみました。わたしはつらいなと思いました。みんなに見られるし、わらわれてはずかしい気もちになってしまうからです。わたしのかみがだれかのやくに立ってほしい。カツラをつけた子は「カツラをつくるのを手つだってくれてありがとう。」と思うかもしれません。かみをおくった時は、よかったとあんしんしました。

ある日、おとうさんが、ヘアドネーションを日本にひろめた人のことを話してくれました。その人が目ざしているのは、「カツラのひつようないせかい」です。もうすこしわかりやすく言うと、「カツラをつけてつけなくてもいいせかい」だそうです。

すきなかみがたにして、おしゃれをしたくて、カツラをつける人もいるかもしれません。でも、ほんとうはつけたくないけど、みんなにじろじろ見られたくないから、カツラをつける人もいるかもしれません。あつい日は、つけたくないかもしれません。

わたしは、「カツラをおしつけてはいけない」と気づきました。

そのために、まわりがやさしい気もちをもったり、びょう気でそういうこともあるとしったりすることがたいせつだと思います。みんなとちがっていいと思う人がふえてほしいです。まわりの人がかかわることで、びょう気の人がじゆうに生活できると思います。

わたしも、もっと「みんなちがっていい」と思えるように、友だちの話をたくさんきいて、こまっていたらたすけてあげたいです。

【福祉作文の部】小学生上学年の部　最優秀賞

「ぼくにもできる「福祉」とは？」

西古川小学校　五年　金子　光汰

「福祉」と聞いて、ぼくがイメージしたことは、障害を持つ人や高れい者、恵まれない人たちなどを助けてあげるということでした。でもぼくは、あまりそういう人たちと関わったことがありません。そんなぼくにもできる「福祉」はあるのかなぁと考えました。

毎年、ぼくたちの学校では、ユニセフ募金を行っています。また、九州での台風被害があった時にも、児童会で募金を集め、大崎市の社会福祉協議会にお願いして届けてもらいました。小学生のぼくたちにできることは限られていますが、このように積極的に募金をすることで、協力できると思うのです。みんなが幸せになってほしいという気持ちをこめて、これからも募金を行っていきたいと思います。それがぼくにできる「福祉」だと思うからです。

ぼくは、小さい時からサッカーをしています。最近は県の選抜にも選ばれ、週末にはほとんど試合が入っています。ある試合で、ちょっと気になるプレイヤーがいました。片うでが短いのです。小学生のぼくたちにできることは限られていますが、このようあまりそういった人を見ることがなかったぼくは、目をはなせなくなりました。休けい時間もずっと気になって見ていると、スパイクのくつひもが取れ、結び直そうとしていました。（あの指では、絶対結ぶことなんてできないよ。だれかやってあげればいいのに。）と思って見ていると、短い指を器用に使って、あっという間に自分で結んでしまったのです。ぼくは、（すごいな！どうやって結んだんだろう？）とびっくりしてしまいました。体の不自由な人たちは、できないことがあって大変だなあと今まで思っていましたが、たくさん練習をしていろいろなことができることを知り、ぼくの気持ちが少し変わりました。その時手伝ってあげた方がよいかなと迷っていましたが、それよりも自分が感じた（すごい！）という気持ちを正直に伝えてあげたほうがよかったのかなあと今は感じています。だって、ふつうにできることをやってもらっても、うれしくないと思うのです。それよりも、ほめられた方がぼくだったらうれしいからです。今度、このような体の不自由な人に接する機会があったら、手伝うのではなく、まず、声をかけて仲良くなろうと思います。特別あつかいするのではなく、気楽に話しかけられた方がよいのではないでしょうか。

いろいろ、自分ができる「福祉」について考えてみましたが、結局、相手が喜び、幸せになる活動をすることが、「福祉」につながるのだと、ぼくは考えました。どんな人にも声をかけて仲良くなったり、みんなで協力して困っている人を助けようとしたりすることが、「福祉」への第一歩なのだと思うのです。だからこれからは、人と人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

【福祉作文の部】中学生の部　最優秀賞

「ボランティア活動から得たもの」

鹿島台中学校　三年　加藤　真帆

私は、八月にとある老夫婦の家に災害ボランティア員としてボランティア活動をしてきました。

この家は七月の大雨により、裏山から土砂が流れてきて、家の裏の側溝に土砂がたまってしまい、おばあさんが一人で土を出す作業をしていました。

私はその状況を見たときに、この溝に土がたまっても大きな問題はないのではと思っていました。しかし、職員の方からこの溝が埋まると、家にまで土砂が流れ込んできてしまうと説明を聞き、とても驚きました。

作業は、おばあさんが一人で作業した際にできた土の山と溝の中の土を土のう袋に入れて、仮置き場に運ぶという作業をしました。作業前は、簡単な内容だからすぐにおわってしまうのではないかと思っていたけれど、実際に作業をしてみると、水分を含んだ土を入れた土のうが想像よりも重かったり、土のう袋の結び方がもう少し下の方で結んだほうが良いと言われたり、簡単だと思っていた作業がとても大変な作業でした。

特に、溝の中にある土を土のう袋に入れる作業は、大きな石が出てきたり、土が硬かったり、虫が出てきたりしてとても大変だったけれど、終わった時に最初見たときは、全く違っていてやりがいを感じました。

最初に、おじいさんとおばあさんにあいさつをしたら、

「暑い中、本当にありがとうございました。」

と感謝されて、暑かったけど参加してよかったなと思い、とてもうれしくなりました。

私自身、今までボランティア活動は参加してもお金をもらえるというわけでもないし、ただ作業をして自分が疲れるだけだと思っていたので、あんまりボランティア活動に参加しようとは思っていませんでした。でも、今回夏休みだから何かに挑戦しようと思い、ボランティア活動に申し込みをし、参加しました。

今回のボランティア活動を通して、ボランティア活動をするということで、誰かを助けることができたり、誰かの役に立つことができると気付けました。これからも、困っている人のために今自分ができることは何か考えてみたり、積極的にボランティア活動に参加するようにしたりして、誰かの役に少しでも立ちたい、立てるようになりたいと思うようになりました。

福祉ポスターの部

中学生の部　最優秀賞

「育てる福祉の心」

岩出山中学校　2年　宇和野　采侑

小学生上学年の部
最優秀賞

「できることからはじめよう！」

三本木小学校　5年　鈴木 萌花

小学生下学年の部
最優秀賞

「思いやり赤い羽根」

東大崎小学校　3年　野田　七榎

福祉川柳の部

小学生下学年の部
最優秀賞

ゴミ拾い
小さなぼくの　ボランティア

古川第二小学校　二年　武田　崇司

中学生の部
最優秀賞

補助犬と
あかるい未来　歩きだす

岩出山中学校　二年　佐藤　友結

※入賞作品については当会ホームページでご覧いただけます。

お詫びと訂正

令和四年十一月二十七日（日）発行おおさき福祉のページにて掲載した宮城県社会福祉協議会会長表彰・ボランティア（個人）功労のご芳名に間違いがありましたので、お詫びして訂正を致します。大変申し訳ございませんでした。

渡辺　智恵子　様